

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270500566		
法人名	株式会社こすもすケアセンター		
事業所名	グループホーム秋櫻	ユニット名	
所在地	長崎県大村市西大村本町755-1		
自己評価作成日	平成30年2月6日	評価結果市町村受理日	平成30年3月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成30年2月20日	評価確定日	平成30年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

公共機関も便利な住宅地の中、入居者を中心に生き生きと自分らしく毎日が過ごせるように職員一丸となって支援しています。又、医療との連携をとることにより入居者の体調の早期発見に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホーム秋櫻”は開設から15年が経過している。職員個々の適材適所を見極め、系列内の異動が行われており、“グループホーム秋櫻”も29年秋から新体制になっている。新管理者と新副主任、新計画作成担当(ケアマネ)等が合流し、新たなチームで始動している。職員個々の経験や特技、レベルアップポイントなども異なるが、「一日の気づき」を記入し、全職員が目を通し、ミーティング時に管理者も含めた話し合いをしている。職員が生き生きとやりがいを持って仕事ができる方法を検討すると共に、研修参加の機会も作られている。母体の秋櫻醫院や訪問看護ステーション秋櫻等との連携も素晴らしく、“グループホーム秋櫻”で看取りケアも行われている。取締役(看護師)も全ての入居者の心身状況を理解しており、職員の安心になっている。今後も入居者個々の「有する能力」等のアセスメント情報を増やし、ST(言語聴覚士)等のリハビリ職からの「評価」を頂きながら、個別の介護計画を作成し、職員間で共有・実践していく予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生き生きと暮らせる居心地よい住まい」の理念をフロアに掲げ、全職員がいつでも見えるようにしている。	法人の理念と共に、ホームの理念「生き生き暮らせる居心地良い住まい」が作られている。入居者にとって“生き生き”とは、“居心地良い住まい”とは何かを職員個々に考え、入居者の好きな音楽などをBGMとして流したり、散歩や買い物、外食等にお連れしている。	29年秋から新体制になり、日々の業務に精一杯な職員もおられる。今後も「理念」に込められている意味や、地域密着型の意味を含めて職員間で共有し、チーム力に繋がると共に、日々の実践の振り返りを行う予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所行事を行うときは地域の方へ案内を配り、参加してもらっている	29年度は地域の方を招待し、ホームの畑で芋掘りをして頂いた。ホーム主催の「もちつき会」や「五月祭」も恒例で、保育園児(和太鼓)やボランティア(日本舞踊)の方々、地域の方々に来て下さっている。地域のイルミネーション見学に行かれたり、4年に1回の“おくち庭先回り”も楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市民公開講座の実施、参加。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、町内会、民生委員、市職員に参加していただき、意見交換等行っている。	「防災対策の検討」「食中毒の勉強」「地域の情報交換」も行われ、「感染予防」のテーマの時には、手洗いフェッカーを体験して頂いた。参加者の皆様からホーム運営へのアドバイスを頂いており、施設行事にエフロン持参で参加して下さったり、ギター演奏などをして下さっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で市の担当者と意見交換を行っている。	運営推進会議の時に長寿介護課の課長補佐と地域包括の職員等が参加して下さる。市の取り組みや他のホームの取り組みを教えて頂いたり、地域包括の栄養士の方からもアドバイスを頂いている。大村市との連携の中で「福祉・介護避難所」になっており、今後も協力関係を築いていく予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	掃除や換気の際など施錠しない時間を設けている。	身体拘束の研修を毎年行っている。穏やかに過ごされている方が多く、ベッドから転倒の可能性がある方は畳の上に布団を敷く等の工夫をしている。ホームの入り口を施錠する時間帯があり、今後も「鍵の意味」「鍵の必要性」「帰宅願望が見られる時間等の分析」等を深めていく予定である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修会、勉強会に参加し理解を深め虐待防止に努めている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング時に権利擁護の勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や今年の介護保険改正時には十分な説明を行い、不安や疑問など尋ねるようにしている。又、面会時には日常の様子を伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「意見箱」の設置をしている。	家族の来訪も多く、面会時の情報交換を続けており、毎月の“秋櫻便り”も個人毎に作成している。入居時の不安や要望(外出等)を傾聴し、安心した生活になるように努めている。家族会(交流会)も行われ、家族の方が料理の差し入れをして下さり、楽しいひと時になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	「一日の気づき」を記入し、全職員が目を通しミーティング時に管理者も含め話し合いをしている。また、朝礼板や口頭にて報告、相談を受けている。	適材適所に応じた異動もあり、29年秋から新しいチームが始動している。新管理者や副主任等を中心に職員個々のレベルアップに繋げると共に、意見を言いやすい環境作りに努めている。職員の勤務年数や年齢の幅もあり、今後も職員個々が相談しやすい環境作りを検討予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事システムを導入し、目標設定、面接を行い努力や実行を評価している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人に対し研修やその人に不足している力量に関する研修の参加を提案し、一人一人の能力を伸ばすようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会にて他グループホームを相互研修を行っている。市内のグループホーム職員が集まり勉強会を行い質の向上に努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前より面会を行い要望等を聞き入居後スムーズにサービスの提供ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面会し要望等を聞き入居後面会時には不安なことが無いかなを尋ねるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望や希望を聞き、ケアに活かす事により信頼関係をj得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で本人にできることを提案し取り組んでもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加を呼びかけ一緒に過ごしてもらおう。必要な物品の購入や病院受診を家族に依頼し、一方的な支援にならないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方や近所の方の面会や電話対応をその都度行っている。	ご本人に年賀状や暑中見舞い等を書いてもらっている。同僚等の知人の方が訪問して下さったり、1階のデイサービスで近所の方(デイ利用者)との会話を楽しまれている。今後も入居者の生活歴(馴染みの場所など)のアセスメント記録を増やし、介護計画に活かしていく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	おやつ作りや手作業を提案し参加してもらい交流を図っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	もちつき会や五月祭などの当方主催の催しに参加を依頼している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中での会話などから本人の希望、意向の把握に努めている。	ご本人の意思決定を大切に声かけをしている。日々の生活の中で飲み物や食べ物の希望、散髪や買い物、散歩等の希望を聞くようにしている。「コーヒーを飲みたい」「お化粧がしたい」等の要望も叶えており、今後も入居者個々のお気持ちを察する取り組みを続けていく予定である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、実態把握票で情報の共有を行い、普段の様子など記録に残すようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の様子を毎日記録し、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時に話し合いを行い意見交換を行い介護計画を作成している。	ご本人と家族の要望も把握し、ケアプランに盛り込むように努めており、29年度からアセスメント用紙の改良、介護計画の改善を始めている。職員の気付きメモ等も活用し、職員全員で毎月のモニタリングをしている。主治医やOT、取締役(看護師)等からアドバイスを頂き、職員同士の情報交換を続けている。	今後も「馴染みの場所等」「有する能力(可能性)」「認知能力」「介助の理由」「意向」「複数の解決策」等をアセスメントし、介護計画も含めて職員間で共有すると共に、ご本人に説明するために「わかりやすい表現」に努めていく予定である。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「一日の気づき」を活用し介護計画の見直しを反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化に伴い、ケアの方法の変更をその都度検討実行している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々との行事や交流にて本人と地域の接点を作り楽しむことのできるよう支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係の構築は行えている。	提携医、精神科医、歯科医の往診があり、アドバイスを頂いている。取締役(看護師)や訪問看護師(週1回)との連携も図り、体調変化時は取締役(看護師)からのアドバイスもあり、職員の観察力も高まっている。秋櫻(ホーム)に入居し、入退院が減った方もおられ、家族の安心になっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度医療連携を行い気になる事等の報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を行いその際に病院関係者との情報交換を行っている。また、こちらから連絡を病院側に取り情報交換を行いながら関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明、同意を得ている。主治医、訪問看護師、職員との連携をとり安心した終末期を迎えられるようにしている。	「最期までここで・・・」と望まれる方ばかりで、2年の間に2名の看取りケアが行われた。身体全てが(口、陰部含めて)綺麗であるように、手浴、足浴、清拭なども行われ、優しい声かけが続けられている。普段の生活を感じられるように、リビングの畳で過ごされ、家族も一緒に温かいケアが行われた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成し、それに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年二回消防訓練を行いました、消防団、地域住民のかたに参加してもらっている。	防災計画と共に、地震、風水害の対策マニュアルも作られており、自動通報の変更に伴い、マニュアル変更も行う予定である。地域の方や有料の方、消防署、消防団の方々と夜間想定訓練を行い、入居者役の方が非常階段の昇降も行っている。消防署の方から「防火扉を確実に閉めるように」等のアドバイスも頂いている。災害に備えて、水・米・缶詰等を3日分準備し、発電機(2台)も準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇委員会に参加している職員から指導を行い注意している。また、接遇講習会に参加している。	24年度に接遇委員会ができ、職員の接遇面(言葉遣い等)のレベルアップに向けた取り組みを続けてこられた。29年度は「誉め活動」を開始し、職員個々の頑張り等を職員同士で見つけ合う取り組みに繋げている。	今後も職員個々に“親しみ”と“慣れ合い”の言葉の違い等を振り返ると共に、職員同士で注意し合える環境を作っていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ作りや手作業を行う際、本人に提案をまずは行い協力して作業を行っている。また、行事等では本人に食べたいもの、買いたいものの提案を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしているが、時間がかかっている際や困っている際には支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容や散髪の際にはカット、カラー、パーマの要望を本人に確認し行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃがいもの皮むき、もやしの根切り等手伝ってもらっている。また、食後には食器拭きを手伝ってもらっている。	朝と昼は1階の厨房で作り、夕食はホームで作られている。献立は管理栄養士のチェックを受け、家族に郵送している。入居者と干し柿作り等も楽しまれ、配膳等もして頂いており、今後も役割を増やすと共に、嚥下評価等を法人のST(言語聴覚士)に依頼し、食事形態の検討も行う予定である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カルテに毎食の摂取量の記入を行っている。また、管理栄養士に相談、指導を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。また、夜間には義歯洗浄剤を使用している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	カルテへ排泄内容の記入を行いミーティングにて検討を行っている。	重度化している中、布の下着の方も多い。排泄チェック表に色(失禁時は赤等)を変えて記入し、排泄パターンに応じた誘導をしており、リハビリパンツを使用していた方が布の下着に変更できたり、小さめのパッドに変更できた方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝朝食時に牛乳の提供を行っている。また、ファイバーの使用をしている。水分を多めにとってもらうよう声かけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調等を考えながら順番に入浴してもらっている。	入浴好きな方もおられ、車いす利用の方を含めて可能な限り湯船に浸かって頂いている。体調や体格に応じて洗身時は2人介助が行われ、できる所は洗って頂いている。季節に応じて柚子湯や菖蒲湯も生まれ、1対1でゆっくり会話する時間を大切にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も本人の希望に応じて休息してもらっている。また、夜間入眠前には温かい飲み物の提供を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬ファイルを活用し、薬の目的や副作用について全職員がすぐに確認できるようにしている。内服薬の変更時には、カーデックスに記録し変更後の状態も記録するようにしている。誤薬防止の為に、二重チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	定期的に散歩を行っている。また、フロアで音楽を流し楽しんでもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事、外出の際、事業所の行事の際には家族の方も参加できるように声かけを行っている。	施設内の散歩や中庭でのおやつ(日向ぼっこ)を楽しまれたり、畑で“さつまいも等”の収穫をされている。イオンや農村レストランで外食をされたり、家族も一緒に大村公園等での花見(桜や菖蒲等)を楽しまれている。家族と買い物に行かれたり、自宅に帰られる方もおられる。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際にお小遣いを用意し、支払い等自分でできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次ぎは行っている。又、年賀状、暑中見舞い葉書きを本人に書いてもらいだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その月に合ったクラフトカレンダーを作成し壁紙にしている。天窗と電気で光の調整を行い、空調は温度計、湿度計にて確認しながら職員が行っている。季節に合った花をフロアに飾っている。	フロアには天窗があり、光の調整ができています。床は転倒時の衝撃予防の素材が貼られており、入居者の方々は滑り止めの靴下で過ごされています。広いフロアには和室もあり、畳で休まれたり、入居者が洗濯物たたみ等をして下さっている。今後は室内で育てられる観葉植物等を検討していく予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席、ソファー、畳等思い思いの場所で過ごして貰えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人になじみのあるもの、写真を自室に置き心地よい居室づくりを行っている。	愛用の姿見や時計等と共に、仏壇やお位牌を持ち込まれており、お水を供えている。入居者と家族と相談しながら、お部屋作りをされており、お孫さんが書かれた習字や絵、家族の写真等も飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線上に障害となるものは置かない。床は柔らかい素材でできている。		